

第13回土木構築物検討会 議事録

1.開催日時：平成22年4月6日(火) 10:00～11:50

2.開催場所：日本電気協会 4D会議室

3.出席者(順不同,敬称略)

出席委員：谷(横浜国大),山崎(首都大学東京),衣笠(東京工業大学),金谷(関西電力),
藪(北海道電力),大宮(東北電力),高尾(東京電力),仲田(中部電力),寺田
(北陸電力),松崎(四国電力),黒岡(中国電力) (計11名)

代理出席：森(日本原電・北川代理),五月女(電源開発・高岡代理),松村(電中研・大友代理),
袴着(九州電力・生貞代理) (計4名)

常時参加者：末広(東京電力),福本(関西電力) (計2名)

事務局：平野,井上(日本電気協会) (計2名)

4.配付資料

資料 No.13-1 第12回 土木構築物検討会議事録(案)

資料 No.13-2 JEAC4601-2008「原子力発電所耐震設計技術規程」の第5章に関する正誤表(案)

参考資料1 耐震設計分科会 土木構築物検討会委員名簿

参考資料2 耐震設計分科会平成22年度活動計画

参考資料3 平成22年度各分野の規格策定活動

参考資料4 第38回 耐震設計分科会議事録(案)

5.議事

(1)代理出席者の承認及び会議定足数の確認

事務局から,代理出席者4名の紹介を行い,規約に従って衣笠主査の承認を得た。また出席者は代理出席者を含めて15名で,会議開催条件の「委員総数の2/3以上の出席(11名以上)」を満たしていることを確認した。

(2)主査の選任,副主査・幹事の指名

事務局から,衣笠主査の検討会主査任期満了に伴う主査選任の説明を行った。衣笠主査より,後任主査として谷委員の推薦があった。他に推薦がなかったことから挙手による決議を行ったところ,全員の賛成により可決された。

谷新主査よりご挨拶があり,副主査として山崎委員,幹事として金谷委員が指名された。

(3)前回議事録の確認

事務局から,資料 No.13-1に基づき,第12回土木構築物検討会議事録(案)が読み上げられ,正式な議事録とすることが全員の挙手により承認された。

(4) JEAC4601 について

金谷幹事，福本氏(常時参加者)から，JEAC4601 の「第 5 章 屋外重要土木構造物の耐震設計」において修正が必要な部分が認められたので，資料 No.13-2 に基づき修正案について説明があった。審議の結果，正誤表(案)は本日のコメントを反映した内容で耐震設計分科会に提案する事について，全員の挙手により承認された。

また，合わせて編集上の軽微な変更と見なされる修正については，主査，副主査，幹事に一任し，編集上の修正以上の修正があった場合は別途検討会に諮ることも了承された。

主な質疑・コメントは下記の通り。

- ・資料 No.13-25.5.2(2)液状化を考慮する場合の地盤定数の低減において，地盤の初期剛性が F_L 値によって低減するとの考え方を明記したのだが，専門的に見ておかしくないか。想定している定数がリニアなのか，それともあるところからフラットとしているのか。液状化ではひずみが非常に大きく効くが，その時に生じる応力として上限値を設定したモデルなのか。つまり線形モデルなのかバイリニアなのかという事だが，もし線形ならばフラットな部分が増減すると書いても意味のないことになる。
- ・R-0 モデルをイメージして，ひずみに応じて剛性を求められるので，その G_0 を下げれば全体としてのひずみに応じた剛性を下げられることから初期剛性の低減という表現にした。R-0 モデルを用いているという事は，上限を設けている事と同じである。それならば他に考慮するパラメータもなく，無次元化されているのでおかしい表現ではない。ただ，R-0 モデル以外に使う計算する場合にはおかしくなるし，道示の方は R-0 モデルを前提としていない表現になっている。R-0 モデルを使うことが暗黙のことなのか，前半に採用する旨の記述があればおかしい表現ではない。
- ・R-0 モデルを使用することを記載していないが，R-0 モデルをイメージして考えたので「地盤の剛性」とするかどうか迷った所である。
どこか前半で R-0 モデルについて言及されていないのであれば，「初期」を外した方が良い。或いは「R-0 モデルに用いる初期剛性」と限定してしまうのだが，剛性に制限を加えるよりは，制限のない「地盤の剛性」と言う表現の方が良い。
- ・附属書 5.2 曲げ耐力の評価式に対して，本文の表 5.6.3-1 では下別表を引用しているが，これはせん断耐力に対する評価式であって，曲げ耐力の安全係数ではないのではないかと。
正誤表の表 5.6.3-1 の上表に記述した通り，せん断耐力照査の場合は下別表によるが，曲げ耐力照査については附属書 5.2 を引用してそこに修正を追加している。
- ・(2)曲げモーメント及び曲げモーメントと軸方向力を受ける部材の「部材係数 γ_0 は一般に 1.1 とし てよい」との記述は正しいか。
確認する。

6. その他

1)平成 22 年度活動計画及び各分野の規格策定活動

事務局より，参考資料 2,3 に基づき，耐震設計分科会の平成 22 年度活動計画及び各分野の規格策定活動について，前回の規格委員会に報告，承認されたことの説明があった。

2)次回分科会開催予定

次回検討会の開催については、別途事務局から連絡する事とした。

以 上